

由喜賀の 眼

シュールで哲学的な世界

最

近、私の周囲で「読んで？」「いいよね」と盛んに話題になっている、とっておきの作品を今回はご紹介します。

「モーニング」連載中の榎本俊二「ムーたち」。毎回回ったの四コマで、シュールで哲学的な、なんとも独特の世界へと連れていってくれます。

例えば「移痛」という話では、歯の治療中に痛く感じない方法を父親が息子に伝授します。「痛みの発生源を遠くへ移動させていけばいい」というのです。息子がそれを実行すると、痛みは手に、さらにイスへと移動し、やがて室内を通っ



©榎本俊二／講談社

て街へと広がっていきます。「そんなバカな！」と言えばそれまですが、作者の独特の世界に巻き込まれていくうちに「本当にあるかも」と妙に説得されてしまいます。

他にも、何事も前向きに考える少年と、何事も後ろ向きに考

える少年の対照的なリアクションをひたすら描いた「前後向き」、外国人の名前に対応する日本人の名前（デビッド・アキラとか）をひたすら挙げていく「ホワッツユアネーム？」、人類がフグの毒を取り除いて食用にするまでの長い歴史をサイレントで表現した「挑戦者たち」など、私たちの凝り固まった常識をグラグラと揺さぶってくる問題作が次々に登場します。

シュールで哲学的な世界に、あつという間に連れていってくれる「ムーたち」。これは、やはり漫画だからこそその表現だろうと思います。榎本俊二のシンプルながらも読者の心をザワザワ波立たせる絵の力が、作品の説得力を支えています。こんな画期的な作品が、それとなく週刊青年漫画誌に連載されている日本の漫画界は、素晴らしいところだなと、あらためて思いました。（漫画コラムニスト）